

2010年6月1日(火)

広島国際大学 第13回 理学療法セミナー

整形外科疾患治療のアートとサイエンス “投球肩障害予防の取り組み”

投球障害肩のメカニズム、治療、予防において、投球フォームの異常をもたらす運動連鎖のタイミングの異常や、全身の個々の運動ユニットの機能的問題の分析と問題解決が必要とされる一方、肩甲上腕関節の運動そのものに異常が存在する場合は、理想的なフォームで投球したとしても関節内の組織への過剰なストレスは避けられないのではないかと考えられます。

今回のセミナーでは肩甲上腕関節のキネマティクスに焦点を絞り、その診断、外科的治療、最新のバイオメカニクス研究、保存療法の方向性について深く議論します。

なお、日程につきましては以下のとおりです。

- ◎ 日時：2010年6月12日(土)
15:00～18:00 [14:00～受付開始]
- ◎ 場所：広島国際大学 東広島キャンパス 1号館2階121教室
(〒739-2695 東広島市黒瀬学園台555-36)
- ◎ 講師：・西中 直也(昭和大学藤が丘病院整形外科 助教(医局長))
・蒲田 和芳(本学 理学療法学科 准教授)
・山内 弘喜(本学 大学院)
- ◎ 対象者：一般
- ◎ 定員：120名
- ◎ 参加費：無料

添付資料 開催案内

以上

この件に関するお問い合わせ先

広島国際大学 保健医療学部事務室 までお願いいたします。

TEL: 0823-70-4541 FAX: 0823-70-4542

上記リリースに関する資料は <http://www.hirokoku-u.ac.jp/>にUPされております。

発信枚数：本書含め2枚

広島国際大学理学療法学科

第13回理学療法セミナー

テーマ 整形外科疾患治療のアートとサイエンス
“投球肩障害予防の取り組み”

◆内容

投球障害肩のメカニズム、治療、予防において、投球フォームの異常をもたらす運動連鎖のタイミングの異常や、全身の個々の運動ユニットの機能的問題の分析と問題解決が必要とされる。

一方、肩甲上腕関節の運動そのものに異常が存在する場合は、理想的なフォームで投球したとしても関節内の組織への過剰なストレスは避けられないのではないかと考えられる。すなわち、フォームの改善と肩甲上腕関節のキネマティクスの正常化は投球障害肩の治療や予防における両輪であると捉えるべきであろう。

今回のセミナーでは肩甲上腕関節のキネマティクスに焦点を絞り、その診断、外科的治療、最新のバイオメカニクス研究、保存療法の方向性について深く議論する。

◆講師

西中直也（昭和大学藤が丘病院整形外科 助教 医局長）
蒲田和芳（広島国際大学理学療法学科）
山内弘喜（広島国際大学大学院）

◆日時：平成22年6月12日 土曜日

14時 受付開始
15時 開始
18時 終了予定

◆会場：広島国際大学東広島キャンパス 1号館2階 121教室 広島県東広島市黒瀬学園台555-36

- * 当大学の駐車場をご利用ください。
- * 参加費無料
- * 人数：120名